

第26回参議院議員通常選挙
選挙前・選挙後調査
—調査結果の概要—

はしがき

公益財団法人明るい選挙推進協会では、国政選挙、統一地方選挙の度に、全国の有権者を対象として、有権者の投票行動と意識を探るための意識調査を行ってきました。

今回はそれとは違い、第 26 回参院選の執行に際し、選挙や政治等に対する意識の変化等を確認するため、同一の調査対象者（有権者）に、参院選の前（公示日前）と投票日後に、同様の質問項目による調査を行いました。同一の調査対象者によるパネル調査は、1983 年の第 37 回衆院選の際に、神戸大学名誉教授の三宅一郎氏が当時の研究グループで行って以来、約 40 年ぶりの調査となり、協会としては初めての試みとなります。

調査の企画及び実施、調査結果の分析及び本報告書は、埼玉大学名誉教授の松本正生氏に御協力、御執筆いただきました。ここに厚く御礼申し上げます。

本調査が、今後の新しい啓発事業の企画検討等によき参考資料となることを願ってやみません。

令和 5 年 3 月

公益財団法人明るい選挙推進協会

目次

I	調査の方法	1
II	調査票と回答の単純分布	
	・ 第 26 回参議院議員通常選挙 選挙前意識調査	5
	・ 第 26 回参議院議員通常選挙 選挙後意識調査	12
III	調査結果の概要	
	1. 投票予定政党と投票政党	18
	2. 政党支持の種類	22
	3. 「支持」と「投票」	24
	4. 「支持（政党）」と「拒否（政党）」：政党支持の「幅」	29
	5. 若者有権者の投票行動と情報環境	33

I 調査の方法

1 調査の目的

この調査は、令和4年7月10日に執行された第26回参議院議員通常選挙の公示日前および投票日後に、同一の調査対象者（有権者）に選挙や政治等に対する意識を調査し、その変化等を確認し、今後の選挙啓発上の資料とすることを目的とする。

2 調査の項目

[選挙前調査]

- (1) 政治・選挙への関心
- (2) 投票予定
- (3) 政党評価
- (4) 選挙制度について

[選挙後調査]

- (1) 政治・選挙への関心
- (2) 投票と棄権
- (3) 政党評価
- (4) 選挙制度について

3 調査の設計

この調査は、次のように設計した。

- (1) 調査地域 全国
- (2) 調査対象 満18歳以上の男女個人
- (3) 標本数 3,150人
- (4) 標本抽出 選挙人名簿を使用
- (5) 抽出方法 層化2段無作為抽出法
- (6) 調査方法 郵送配布郵送回収法
- (7) 調査時期

[選挙前調査] 令和4年6月2日(木) ～ 7月8日(金)

事前葉書投函 5月26日(木)

調査票投函 5月31日(火)

督促(封書)投函 6月15日(水)

[選挙後調査] 令和4年7月28日(木) ～ 8月31日(水)

調査票投函 7月26日(火)

督促(封書)投函 8月10日(水)

※選挙後調査の調査票は、選挙前調査に回答があった人だけに投函した。

- (8) 調査実施委託機関 一般社団法人中央調査社

4 回収結果

(1) 回収数 (回収率)

[選挙前調査] 総回収数 1,787 (56.7%)

うち有効回答数 1,721 (54.6%)

[選挙後調査] 総回収数 1,494 (47.4%)

うち有効回答数 1,422 (82.6% (標本数比 45.1%))

※選挙後調査の調査票は、選挙前調査に回答があった人だけに投函した。

(2) 年代別・都市規模別回収結果 (有効回答数ベース)

①年代別

年 代	標本数	選挙前調査		選挙後調査		
		回収数	回収率(%)	回収数	対標本数 回収率(%)	対選挙前 回収率(%)
18・19歳	66	28	42.4	19	28.8	67.9
20歳代前半	160	68	42.5	44	27.5	64.7
20歳代後半	185	70	37.8	50	27.0	71.4
30歳代	391	190	48.6	144	36.8	75.8
40歳代	437	223	51.0	182	41.6	81.6
50歳代	494	250	50.6	212	42.9	84.8
60歳代	487	307	63.0	259	53.2	84.4
70歳代	559	370	66.2	307	54.9	83.0
80歳以上	371	174	46.9	140	37.7	80.6
不明	0	41	-	65	-	-
合 計	3,150	1,721	54.6	1,422	45.1	82.6

②都市規模

都市規模	標本数	選挙前調査		選挙後調査	
		回収数	回収率(%)	回収数	回収率(%)
大都市	900	442	49.1	357	39.7
20万人以上の市	765	419	54.8	340	44.4
10万人以上の市	495	280	56.6	231	46.7
10万人未満の市	705	409	58.0	348	49.4
郡部 (町村)	285	171	60.0	146	51.2
合 計	3,150	1,721	54.6	1,422	45.1

5 標本抽出方法

- (1) 母集団：全国の市区町村に居住する満 18 歳以上の者
- (2) 標本数：3,150 人
- (3) 地点数：209 市区町村 210 地点
- (4) 抽出方法：層化 2 段無作為抽出法

〔層化〕

①全国の市町村を、都道府県を単位として次の 11 地区に分類した。

(地区)

北海道地区	=北海道	(1 道)
東北地区	=青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県	(6 県)
関東地区	=茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、 神奈川県	(1 都 6 県)
北陸地区	=新潟県、富山県、石川県、福井県	(4 県)
東山地区	=山梨県、長野県、岐阜県	(3 県)
東海地区	=静岡県、愛知県、三重県	(3 県)
近畿地区	=滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県	(2 府 4 県)
中国地区	=鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県	(5 県)
四国地区	=徳島県、香川県、愛媛県、高知県	(4 県)
北九州地区	=福岡県、佐賀県、長崎県、大分県	(4 県)
南九州地区	=熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県	(4 県)

②各地区においては、さらに都市規模によって次のように分類した。

◎ 大都市（都市ごとに分類）

（東京都区部、札幌市、仙台市、さいたま市、千葉市、横浜市、川崎市、相模原市、新潟市、静岡市、浜松市、名古屋市、京都市、大阪市、堺市、神戸市、岡山市、広島市、北九州市、福岡市、熊本市）

◎ 人口 10 万人以上の市

◎ 人口 10 万人未満の市

◎ 郡部（町村）

（注）ここでいう市とは、令和 4 年 4 月 1 日現在市制施行の地域である。

③各地区・都市規模別各層における母集団（令和 3 年 1 月 1 日現在の 18 歳以上の人口）の大きさによりそれぞれ 3,150 の標本数を比例配分し、1 調査地点の標本数が 15 人になるように調査地点数を決めた。

〔抽出〕

- ①第1次抽出単位となる調査地点として、平成27年国勢調査時に設定された調査区を使用した。
- ②抽出に際しての各層内における市区町村の配列順序は、平成27年国勢調査時の、市区町村コード順に従った。
- ③調査地点における対象者の抽出は、調査地点の範囲起点（町・丁目・番地・地区などを指定）から、選挙人名簿により等間隔抽出法によって抽出した。

〔結果〕

以上の抽出作業の結果、得られた地区・都市規模別標本数及び調査地点数は、次のとおりである。

都市規模	大都市	人口10万人以上の市	人口10万人未満の市	郡部 (町村)	計
北海道	45 (3)	30 (2)	30 (2)	30 (2)	135 (9)
東北	30 (2)	75 (5)	75 (5)	45 (3)	225 (15)
関東	435 (29)	450 (30)	150 (10)	45 (3)	1080 (72)
北陸	15 (1)	45 (3)	45 (3)	15 (1)	120 (8)
東山		45 (3)	60 (4)	15 (1)	120 (8)
東海	90 (6)	135 (9)	60 (4)	15 (1)	300 (20)
近畿	165 (11)	225 (15)	105 (7)	30 (2)	525 (35)
中国	45 (3)	75 (5)	45 (3)	15 (1)	180 (12)
四国		45 (3)	30 (2)	15 (1)	90 (6)
北九州	60 (4)	75 (5)	60 (4)	30 (2)	225 (15)
南九州	15 (1)	60 (4)	45 (3)	30 (2)	150 (10)
計	900 (60)	1260 (84)	705 (47)	285 (19)	3150 (210)

※ ()内は調査地点数

II 調査票と回答の単純分布

「第26回参议院議員通常選挙 選挙前意識調査」調査票

Q1 あなたは参院選の投票に行く予定ですか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1721

1 必ず行く	46.9	} (2ページのQ3へお進みください)
2 たぶん行く	34.2	
3 たぶん行かない	7.7	
4 行かない	4.5	
5 わからない	6.3	
無回答	0.4	

Q1で「必ず行く」または「たぶん行く」と回答された方にお尋ねします

Q2 あなたは参院選の選挙区選挙でどの政党の候補者に投票するか決めていますか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1395

1 決めている	51.4	} (2ページのQ3へお進みください)
2 決めていない	44.0	
3 わからない	3.7	
無回答	0.9	

Q2で「決めている」と回答された方にお尋ねします

Q2SQ1 その候補者はどの政党の人ですか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=717

1 自由民主党	57.9	7 れいわ新選組	1.3
2 立憲民主党	14.6	8 社会民主党	0.3
3 日本維新の会	7.4	9 NHK党	0.4
4 公明党	9.2	10 その他の党	1.5
5 国民民主党	2.5	11 無所属	0.3
6 日本共産党	3.6	無回答	1.0

(2ページのQ3へお進みください)

Q2で「決めていない」または「わからない」と回答された方にお尋ねします

Q2SQ2 あえて選ぶとすればどの政党の人ですか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=666

1 自由民主党	33.0	7 れいわ新選組	1.8
2 立憲民主党	10.2	8 社会民主党	-
3 日本維新の会	11.0	9 NHK党	0.2
4 公明党	2.0	10 その他の党	0.8
5 国民民主党	2.9	11 無所属	2.0
6 日本共産党	2.4	12 わからない	33.0
		無回答	0.9

(2ページのQ3へお進みください)

Q 1で「必ず行く」または「たぶん行く」と回答された方にお尋ねします

Q 3 あなたは参院選の比例代表選挙でどの政党または候補者に投票するか決めていますか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1395

1	決めている	50.3
2	決めていない	43.2
3	わからない	5.4
	無回答	1.1

Q 3で「決めている」と回答された方にお尋ねします

Q 3 S Q 1 それはどの政党またはどの政党の候補者ですか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=702

1	自由民主党	51.3	7	れいわ新選組	1.7
2	立憲民主党	14.1	8	社会民主党	0.4
3	日本維新の会	8.8	9	NHK党	0.6
4	公明党	13.5	10	その他の党	1.6
5	国民民主党	2.8		無回答	0.6
6	日本共産党	4.6			

(Q 4へお進みください)

Q 3で「決めていない」または「わからない」と回答された方にお尋ねします

Q 3 S Q 2 あえて選ぶとすればどの政党またはどの政党の候補者ですか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=677

1	自由民主党	29.4	7	れいわ新選組	1.2
2	立憲民主党	10.3	8	社会民主党	0.4
3	日本維新の会	11.2	9	NHK党	0.1
4	公明党	2.4	10	その他の党	1.0
5	国民民主党	3.2	11	わからない	36.8
6	日本共産党	2.7		無回答	1.2

(Q 4へお進みください)

全員の方にお尋ねします

Q 4 あなたには参院選で絶対投票したくない政党がありますか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1721

1	ある	59.0	2	ない	20.2	3	わからない	16.6	無回答	4.2
---	----	------	---	----	------	---	-------	------	-----	-----

(3ページのQ 5へお進みください)

Q 4で「ある」と回答された方にお尋ねします

Q 4 S Q 1 それはどの政党ですか。すべて選んで番号に○をつけてください。 n=1016

1	自由民主党	16.0	7	れいわ新選組	29.9
2	立憲民主党	15.8	8	社会民主党	12.3
3	日本維新の会	9.2	9	NHK党	51.1
4	公明党	21.5	10	その他の党	5.9
5	国民民主党	7.0		無回答	0.1
6	日本共産党	37.9			

(3ページのQ 5へお進みください)

全員の方にお尋ねします

Q5 ところで、あなたは2021年10月に行われた衆議院議員総選挙で投票しましたか。1つ選んで番号に○をつけてください。

n=1721

1 投票した	73.8	} (Q6へお進みください)
2 投票しなかった	21.7	
3 選挙権がなかった	0.6	
4 わからない	2.6	
無回答	1.3	

Q5で「投票した」と回答された方にお尋ねします

Q5SQ1 衆院選の小選挙区選挙で投票したのはどの政党の候補者でしたか。1つ選んで番号に○をつけてください。

n=1270

1 自由民主党	49.6	8 社会民主党	0.5
2 立憲民主党	18.2	9 NHKと裁判してる党	
3 日本維新の会	6.5	弁護士法72条違反で	0.2
4 公明党	4.9	10 その他の党	0.2
5 国民民主党	1.3	11 無所属	1.3
6 日本共産党	2.8	12 白票を入れた	1.3
7 れいわ新選組	0.9	13 覚えていない	11.2
		無回答	1.2

Q5SQ2 衆院選の比例代表選挙で投票した政党はどこですか。1つ選んで番号に○をつけてください。

n=1270

1 自由民主党	38.9	8 社会民主党	0.7
2 立憲民主党	16.7	9 NHKと裁判してる党	
3 日本維新の会	9.7	弁護士法72条違反で	0.6
4 公明党	8.9	10 その他の党	0.2
5 国民民主党	2.7	11 白票を入れた	1.3
6 日本共産党	3.6	12 覚えていない	13.1
7 れいわ新選組	1.8	無回答	1.8

(Q6へお進みください)

全員の方にお尋ねします

Q6 政党に対するあなたの評価をおたずねします。

A 党首または代表が一番良いと思う政党はどこですか。1つ選んで番号に○をつけてください。n=1721

1 自由民主党	36.1	6 日本共産党	2.3
2 立憲民主党	4.8	7 れいわ新選組	2.0
3 日本維新の会	9.3	8 社会民主党	0.2
4 公明党	5.2	9 NHK党	0.2
5 国民民主党	2.5	10 わからない	35.7
		無回答	1.6

B 候補者の顔ぶれが一番良いと思う政党はどこですか。1つ選んで番号に○をつけてください。n=1721

1 自由民主党	34.4	6 日本共産党	1.2
2 立憲民主党	5.9	7 れいわ新選組	0.9
3 日本維新の会	5.5	8 社会民主党	-
4 公明党	3.5	9 NHK党	0.1
5 国民民主党	0.7	10 わからない	45.4
		無回答	2.4

C 基本的な立場や政策が一番良いと思う政党はどこですか。1つ選んで番号に○をつけてください。

n=1721

1 自由民主党	34.9	6 日本共産党	2.7
2 立憲民主党	7.4	7 れいわ新選組	1.6
3 日本維新の会	9.7	8 社会民主党	0.4
4 公明党	5.3	9 NHK党	0.5
5 国民民主党	2.8	10 わからない	32.7
		無回答	2.0

D 政権担当政党として、一番良いと思う政党はどこですか。1つ選んで番号に○をつけてください。

n=1721

1 自由民主党	44.1	6 日本共産党	0.9
2 立憲民主党	6.0	7 れいわ新選組	0.9
3 日本維新の会	5.3	8 社会民主党	-
4 公明党	3.9	9 NHK党	0.1
5 国民民主党	0.9	10 わからない	35.5
		無回答	2.4

E 政治とカネの問題や政治倫理など、政治的腐敗をなくす上で一番良いと思う政党はどこですか。1つ選んで番号に○をつけてください。

n=1721

1 自由民主党	11.3	6 日本共産党	9.5
2 立憲民主党	7.2	7 れいわ新選組	3.1
3 日本維新の会	13.8	8 社会民主党	0.5
4 公明党	6.5	9 NHK党	0.9
5 国民民主党	1.5	10 わからない	43.8
		無回答	2.0

(4ページのFへお進みください)

F 政治改革を進める上で一番良いと思う政党はどこですか。1つ選んで番号に○をつけてください。

n=1721

1 自由民主党	23.5	6 日本共産党	2.7
2 立憲民主党	9.1	7 れいわ新選組	2.7
3 日本維新の会	16.8	8 社会民主党	0.1
4 公明党	4.8	9 NHK党	0.5
5 国民民主党	2.0	10 わからない	35.1
		無回答	2.7

Q7 あなたは日ごろ、どのような政策課題に関心がありますか。すべて選んで番号に○をつけてください。

n=1721

1 医療・介護	67.1	14 社会資本整備	7.3
2 子育て・教育	44.5	15 地域振興	19.7
3 景気対策	54.8	16 憲法改正	15.3
4 雇用対策	28.6	17 外交・防衛	32.0
5 財政再建	24.6	18 夫婦別姓	4.6
6 年金	64.4	19 男女共同参画／	
7 消費税	35.0	ジェンダー平等	9.5
8 震災からの復興	13.4	20 選挙制度	9.4
9 原発・エネルギー	28.5	21 外国人労働	8.1
10 規制緩和	6.2	22 その他 ()	2.1
11 コロナ対策	28.7	23 関心がある政策はない	1.1
			1.1
12 治安対策	16.7	24 わからない	1.5
13 防災対策	25.8	無回答	0.3

Q8 「選挙権」が認められるのは満18歳からです。18歳という年齢で選挙権を持つのは早いと思いますか。それとも遅いと思いますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

n=1721

1 早い	35.3
2 ちょうどいい	50.7
3 遅い	1.6
4 わからない	11.5
無回答	0.8

Q9 一方、選挙に立候補できる「被選挙権」は、都道府県知事選挙と参議院議員通常選挙では30歳以上、それ以外では25歳以上となっています。あなたは、被選挙権についてどうするべきだと思いますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

n=1721

1 選挙権と同じ18歳以上にすべきだ	7.3
2 引き下げるべきだが、選挙権と同じ年齢まで引き下げる必要はない	25.9
3 今のままでよい	54.6
4 わからない	11.4
無回答	0.9

Q10 あなたは、子どものころ、親と一緒に投票所に行ったことがありますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

n=1721

1 ある	2 ない	3 わからない	無回答
30.4	61.1	7.3	1.2

Q11 あなたは現在の政治に対してどの程度満足していますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

n=1721

1 大いに満足している	0.5
2 だいたい満足している	22.5
3 やや不満足である	41.7
4 大いに不満足である	23.8
5 わからない	9.8
無回答	1.6

Q12 日本の政治家（国会議員、地方議員、首長）を考えたとき、あなたはどんな印象を持っていますか。

1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1721

1 とても信頼できると思う	0.5
2 ある程度信頼できると思う	33.6
3 あまり信頼できないと思う	43.8
4 全く信頼できないと思う	14.4
5 わからない	6.7
無回答	1.0

Q13 あなたは、日本の将来はどのようになると思いますか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1721

1 良くなると思う	4.5
2 あまり変わらないと思う	45.9
3 悪くなると思う	40.4
4 わからない	7.5
無回答	1.7

Q14 あなたは、家族と政治の話をすることがあります。1つ選んで番号に○をつけてください。

n=1721

1 よくある	9.6
2 ときどきある	46.0
3 あまりない	29.9
4 全くない	13.3
無回答	1.2

Q15 あなたは、友人と政治の話をすることがあります。1つ選んで番号に○をつけてください。

n=1721

1 よくある	5.1
2 ときどきある	32.7
3 あまりない	40.9
4 全くない	20.4
無回答	1.0

Q16 あなたは、テレビ、新聞、インターネットで、社会や政治のニュースをどの程度見たり、読んだりしますか。それぞれ1つずつ選んで番号に○をつけてください。 n=1721

A テレビで社会や政治のニュースを見る

1 毎日見ている	55.6
2 週に2、3回見ている	21.4
3 あまり見ない	17.2
4 全く見ない	4.6
5 わからない	0.6
無回答	0.5

B 新聞で社会や政治の記事を読む

1 毎日読んでいる	29.9
2 週に2、3回読んでいる	16.9
3 あまり読まない	20.8
4 全く読まない	30.2
5 わからない	1.2
無回答	1.0

C インターネットで社会や政治のニュースを見る

1 毎日見ている	28.9
2 週に2、3回見ている	25.0
3 あまり見ない	19.7
4 全く見ない	21.1
5 わからない	2.9
無回答	2.4

(6ページのQ17へお進みください)

Q16Cでインターネットで社会や政治のニュースを「毎日見ている」または「週に2、3回見ている」と回答された方にお尋ねします

Q16SQ あなたが社会や政治のニュースの情報源としてよく利用するウェブサイト・アプリはどれですか。すべて選んで番号に○をつけてください。

n=928

1 Yahoo!ニュース	71.1
2 LINE ニュース	29.5
3 Google ニュース	30.7
4 スマートニュース	17.7
5 グノシー	2.7
6 新聞社のニュースサイト・アプリ	20.9
7 テレビ局のニュースサイト・アプリ	15.2
8 YouTube	20.3
9 その他の動画配信サービス (Hulu、GYAO!など)	1.2
10 Twitter	15.0
11 Facebook	2.4
12 Instagram	3.4
13 その他 ()	3.0
無回答	0.6

(6ページのQ17へお進みください)

全員の方にお尋ねします

Q17 選挙のことは別にして、普段あなたは支持している政党がありますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

n=1721

1 ある	2 ない	3 わからない	無回答
40.9	51.1	7.0	0.9

↓
→(Q18へお進みください)

Q17で「ある」と回答された方にお尋ねします

Q17SQ1 それはどの政党ですか。1つ選んで番号に○をつけてください。

n=704

1 自由民主党	55.3	7 れいわ新選組	2.0
2 立憲民主党	12.5	8 社会民主党	0.7
3 日本維新の会	10.7	9 NHK党	0.4
4 公明党	10.9	10 その他の党	1.3
5 国民民主党	2.0	無回答	0.3
6 日本共産党	4.0		

(Q18へお進みください)

全員の方にお尋ねします

Q18 最近の選挙では、投票率が低下してきていますが、あなたはこのことについて、どのようにお考えですか。1つ選んで番号に○をつけてください。

n=1721

1 投票するかしないかは個人の自由なので、別にかまわないと思う	13.9
2 自分たちの代表を選ぶ選挙だから好ましくはないが、やむをえないと思う	28.1
3 投票率が低下することは問題であるから、何らかの対策を講ずべきだと思う	51.8
4 わからない	4.3
無回答	2.0

Q19 特に若者の投票率は低下傾向にあり、これを向上させる有効策がありましたらお書きください。

n=1721

記入あり 38.6

記入なし 61.4

ここからはご回答を統計的に分析するために、
あなたご自身のことについてお尋ねします

F 1 あなたは男性ですか、女性ですか。 n=1721

1 男性	2 女性	3 答えない	無回答
46.0	51.8	1.5	0.6

F 2 あなたのお年は満でいくつですか。 n=1721

_____ 歳			
18~19 歳	1.6	50 歳代	14.5
20 歳代	8.0	60 歳代	17.8
30 歳代	11.0	70 歳代	21.5
40 歳代	13.0	80 歳以上	10.1
		無回答	2.4

F 3 あなたが最後に在籍した（または現在在籍している）学校を、下記の中から1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1721

1 中学校	9.1
2 高校	37.5
3 高専・短大・専修学校	21.6
4 大学	25.9
5 大学院（修士・博士）	2.3
6 答えない	2.4
無回答	1.0

F 4 あなたの現在のお住まいは、次のうちどれですか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1721

1 持ち家（一戸建て）	68.3
2 持ち家（マンションなどの集合住宅）	8.7
3 賃貸住宅（一戸建て）	2.8
4 賃貸住宅（マンション、アパートなどの集合住宅）	16.6
5 社宅・寮	1.4
6 その他	1.9
無回答	0.4

F 5 あなたは、一人住まいですか。それとも家族等の方と同居されていますか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1721

1 一人住まい	2 家族等と同居	3 その他	
14.2	83.3	1.9	
			無回答
			0.5

F 6 あなたにはお子さんがいますか。（同居に限らず、独立しているお子さんも含みます。また、未成年か成人かは問いません。）1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1721

1 いる	2 いない	無回答
70.7	28.8	0.6

F 7 あなたのお宅には、家庭用の固定電話がありますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

（携帯電話・スマートフォンのみの方は「2 ない」に○をつけてください。） n=1721

1 ある	2 ない	無回答
72.3	27.3	0.5

F 8 あなたは現在、携帯電話・スマートフォンを持っていますか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1721

1 はい	2 いいえ	無回答
92.3	6.4	1.3

F 9 最後に、あなたは、ご自宅で電話を使う場合次のどれに当てはまりますか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1721

1 固定電話だけ使う	6.8
2 携帯電話・スマートフォンだけ使う	43.4
3 両方使うが主に固定電話	7.4
4 両方使うが主に携帯電話・スマートフォン	35.4
5 両方とも同じ程度使う	5.3
6 両方とも使わない	1.2
無回答	0.5

「第 26 回参議院議員通常選挙 選挙後意識調査」調査票

Q 1 あなたは参院選の投票に行きましたか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1422

- | | | |
|---|-----------|------|
| 1 | 投票に行った | 78.6 |
| 2 | 投票に行かなかった | 20.5 |
| 3 | 選挙権がなかった | 0.3 |
| | 無回答 | 0.6 |

全員の方にお尋ねします

Q 2 今回の参院選で絶対に投票したくないと思われた政党はありましたか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1422

- | | | | | | | |
|---|------|---|------|---|-------|------|
| 1 | あった | 2 | なかった | 3 | わからない | 無回答 |
| | 49.6 | | 14.3 | | 10.8 | 25.2 |

(2ページのQ 3へお進みください)

Q 2で「あった」と回答された方にお尋ねします

Q 2 S Q 1 それはどの政党ですか。すべて選んで番号に○をつけてください。 n=705

- | | | | | | |
|---|--------|------|----|--------|------|
| 1 | 自由民主党 | 21.6 | 7 | れいわ新選組 | 29.2 |
| 2 | 立憲民主党 | 15.9 | 8 | 社会民主党 | 14.5 |
| 3 | 日本維新の会 | 8.4 | 9 | NHK党 | 58.9 |
| 4 | 公明党 | 23.0 | 10 | その他の党 | 10.9 |
| 5 | 国民民主党 | 6.2 | | 無回答 | 0.1 |
| 6 | 日本共産党 | 34.3 | | | |

(2ページのQ 3へお進みください)

Q 1で「投票に行った」と回答された方にお尋ねします

Q 1 S Q 1 あなたは参院選の選挙区選挙では、どの政党の候補者に投票しましたか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1118

- | | | | | | |
|---|--------|------|----|--------|-----|
| 1 | 自由民主党 | 47.0 | 7 | れいわ新選組 | 1.8 |
| 2 | 立憲民主党 | 17.2 | 8 | 社会民主党 | 0.3 |
| 3 | 日本維新の会 | 10.4 | 9 | NHK党 | 0.8 |
| 4 | 公明党 | 5.6 | 10 | その他の党 | 3.0 |
| 5 | 国民民主党 | 4.1 | 11 | 無所属 | 3.0 |
| 6 | 日本共産党 | 3.8 | 12 | 白票を入れた | 1.8 |
| | | | | 無回答 | 1.3 |

Q 1 S Q 2 あなたは参院選の比例代表選挙では、どの政党またはどの政党の候補者に投票しましたか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1118

- | | | | | | |
|---|--------|------|----|--------|-----|
| 1 | 自由民主党 | 39.1 | 7 | れいわ新選組 | 4.3 |
| 2 | 立憲民主党 | 15.4 | 8 | 社会民主党 | 1.3 |
| 3 | 日本維新の会 | 13.4 | 9 | NHK党 | 1.3 |
| 4 | 公明党 | 10.3 | 10 | その他の党 | 3.0 |
| 5 | 国民民主党 | 4.5 | 11 | 白票を入れた | 2.1 |
| 6 | 日本共産党 | 3.9 | | 無回答 | 1.3 |

(Q 2へお進みください)

全員の方にお尋ねします

Q3 政党に対するあなたの評価をおたずねします。

A 党首または代表が一番良いと思った政党はどこですか。1つ選んで番号に○をつけてください。

n=1422

1	自由民主党	35.2	6	日本共産党	1.9
2	立憲民主党	5.9	7	れいわ新選組	3.7
3	日本維新の会	12.5	8	社会民主党	0.2
4	公明党	4.9	9	NHK党	1.0
5	国民民主党	3.3	10	わからない	29.0
				無回答	2.3

B 候補者の顔ぶれが一番良いと思った政党はどこですか。1つ選んで番号に○をつけてください。

n=1422

1	自由民主党	35.4	6	日本共産党	1.3
2	立憲民主党	6.1	7	れいわ新選組	1.3
3	日本維新の会	7.0	8	社会民主党	-
4	公明党	4.3	9	NHK党	0.7
5	国民民主党	1.1	10	わからない	40.3
				無回答	2.5

C 基本的な立場や政策が一番良いと思った政党はどこですか。1つ選んで番号に○をつけてください。

n=1422

1	自由民主党	33.8	6	日本共産党	2.6
2	立憲民主党	9.4	7	れいわ新選組	3.0
3	日本維新の会	12.4	8	社会民主党	1.0
4	公明党	5.3	9	NHK党	1.0
5	国民民主党	4.1	10	わからない	25.0
				無回答	2.3

D 政権担当政党として、一番良いと思った政党はどこですか。1つ選んで番号に○をつけてください。

n=1422

1	自由民主党	45.7	6	日本共産党	1.0
2	立憲民主党	7.3	7	れいわ新選組	1.8
3	日本維新の会	7.5	8	社会民主党	0.1
4	公明党	4.1	9	NHK党	0.3
5	国民民主党	1.5	10	わからない	28.3
				無回答	2.4

E 政治とカネの問題や政治倫理など、政治的腐敗をなくす上で一番良いと思った政党はどこですか。1つ選んで番号に○をつけてください。

n=1422

1	自由民主党	10.8	6	日本共産党	10.0
2	立憲民主党	6.9	7	れいわ新選組	5.1
3	日本維新の会	17.2	8	社会民主党	0.8
4	公明党	6.0	9	NHK党	0.9
5	国民民主党	1.8	10	わからない	38.4
				無回答	2.1

F 政治改革を進める上で一番良いと思った政党はどこですか。1つ選んで番号に○をつけてください。

n=1422

1	自由民主党	20.1	6	日本共産党	2.7
2	立憲民主党	8.3	7	れいわ新選組	4.4
3	日本維新の会	19.7	8	社会民主党	0.4
4	公明党	4.4	9	NHK党	0.8
5	国民民主党	2.5	10	わからない	29.1
				無回答	7.6

Q 4 今回の参院選では、どのような政策課題を考慮しましたか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。 n=1422

1 医療・介護	47.1	15 社会資本整備	4.1
2 子育て・教育	34.8	16 地域振興	9.0
3 景気対策	52.9	17 憲法改正	15.6
4 雇用対策	21.7	18 外交・防衛	25.7
5 財政再建	20.6	19 夫婦別姓	3.1
6 年金	39.5	20 男女共同参画／	
7 消費税	21.7	ジェンダー平等	7.5
8 震災からの復興	7.8	21 選挙制度	4.7
9 原発・エネルギー	20.3	22 外国人労働	3.2
10 規制緩和	3.8	23 その他()	0.7
11 コロナ対策	35.0	24 政策は考えなかった	5.1
12 治安対策	10.8	25 わからない	5.0
13 防災対策	12.4	無回答	2.3
14 物価対策	28.3		

Q 5 「選挙権」が認められるのは満 18 歳からです。18 歳という年齢で選挙権を持つのは早いと思いますか。それとも遅いと思いますか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1422

1 早い	34.1
2 ちょうどいい	51.0
3 遅い	1.8
4 わからない	11.5
無回答	1.5

Q 6 一方、選挙に立候補できる「被選挙権」は、都道府県知事選挙と参議院議員通常選挙では30歳以上、それ以外では25歳以上となっています。あなたは、被選挙権についてどうするべきだと思いますか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1422

1 選挙権と同じ18歳以上にすべきだ	7.0
2 引き下げるべきだが、選挙権と同じ年齢まで引き下げる必要はない	27.7
3 今のままでよい	54.5
4 わからない	9.1
無回答	1.7

Q 7 あなたは、子どものころ、親と一緒に投票所に行ったことがありますか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1422

1 ある	2 ない	3 わからない	無回答
33.3	58.5	6.7	1.5

Q 8 あなたは現在の政治に対してどの程度満足していますか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1422

1 大いに満足している	0.4
2 だいたい満足している	23.5
3 やや不満足である	43.0
4 大いに不満足である	24.2
5 わからない	7.3
無回答	1.6

Q 9 日本の政治家（国会議員、地方議員、首長）を考えたとき、あなたはどんな印象を持っていますか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1422

1 とても信頼できると思う	0.7
2 ある程度信頼できると思う	33.4
3 あまり信頼できないと思う	44.4
4 全く信頼できないと思う	13.9
5 わからない	6.1
無回答	1.5

Q 10 あなたは、日本の将来はどのようになると思いますか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1422

1 良くなると思う	4.3
2 あまり変わらないと思う	46.4
3 悪くなると思う	42.8
4 わからない	5.3
無回答	1.2

Q 11 あなたは、家族と政治の話をすることがありますか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1422

1 よくある	11.2
2 ときどきある	48.5
3 あまりない	28.0
4 全くない	11.1
無回答	1.2

Q 12 あなたは、友人と政治の話をすることがありますか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1422

1 よくある	6.0
2 ときどきある	34.6
3 あまりない	39.2
4 全くない	19.2
無回答	1.1

引き続き全員の方にお尋ねします

Q 1 3 あなたは、テレビ、新聞、インターネットで、社会や政治のニュースをどの程度見たり、読んだりしますか。それぞれ1つずつ選んで番号に○をつけてください。 n=1422

A テレビで社会や政治のニュースを見る

1 毎日見ている	59.8
2 週に2、3回見ている	19.9
3 あまり見ない	15.3
4 全く見ない	4.1
5 わからない	0.4
無回答	0.4

B 新聞で社会や政治の記事を読む

1 毎日読んでいる	33.5
2 週に2、3回読んでいる	15.5
3 あまり読まない	20.5
4 全く読まない	28.9
5 わからない	0.7
無回答	0.8

C インターネットで社会や政治のニュースを見る

1 毎日見ている	32.8
2 週に2、3回見ている	21.9
3 あまり見ない	20.6
4 全く見ない	19.3
5 わからない	2.1
無回答	3.3

(5ページのQ 1 4へお進みください)

Q 1 3 Cでインターネットで社会や政治のニュースを「毎日見ている」または「週に2、3回見ている」と回答された方にお尋ねします

Q 1 3 S Q あなたが社会や政治のニュースの情報源としてよく利用するウェブサイト・アプリはどれですか。すべて選んで番号に○をつけてください。

n=777

1 Yahoo!ニュース	70.4
2 LINE ニュース	29.7
3 Google ニュース	30.5
4 スマートニュース	16.7
5 グノシー	1.9
6 新聞社のニュースサイト・アプリ	18.9
7 テレビ局のニュースサイト・アプリ	11.8
8 YouTube	20.7
9 その他の動画配信サービス (Hulu、GYAO!など)	1.3
10 Twitter	14.9
11 Facebook	3.6
12 Instagram	2.8
13 その他 ()	1.7
無回答	1.0

(5ページのQ14へお進みください)

全員の方にお尋ねします

Q14 選挙のことは別にして、普段あなたは支持している政党がありますか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1422

1 ある	2 ない	3 わからない	無回答
45.2	46.6	6.2	2.0



.....> (Q15へお進みください)

Q14で「ある」と回答された方にお尋ねします

Q14SQ1 それはどの政党ですか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=643

1 自由民主党	52.3	7 れいわ新選組	2.8
2 立憲民主党	12.8	8 社会民主党	0.8
3 日本維新の会	11.5	9 NHK党	0.9
4 公明党	10.4	10 その他の党	3.0
5 国民民主党	2.5	無回答	0.2
6 日本共産党	3.0		

(Q15へお進みください)

全員の方にお尋ねします

Q15 最近の選挙では、投票率が低下してきていますが、あなたはこのことについて、どのようにお考えですか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1422

- | | |
|--------------------------------------|------|
| 1 投票するかしないかは個人の自由なので、別にかまわないと思う | 12.3 |
| 2 自分たちの代表を選ぶ選挙だから好ましくはないが、やむをえないと思う | 25.8 |
| 3 投票率が低下することは問題であるから、何らかの対策を講ずべきだと思う | 55.6 |
| 4 わからない | 3.7 |
| 無回答 | 2.6 |

Q16 特に若者の投票率は低下傾向にあります。これを向上させる有効策について、今回の参院選を通してお考えになったことがありましたらお書きください。

記入あり 38.8

記入なし 61.2

無回答
4.7

ここからはご回答を統計的に分析するために、
あなたご自身のことについてお尋ねします

F 1 あなたは男性ですか、女性ですか。 n=1422

1 男性	2 女性	3 答えない	無回答
44.0	50.1	1.3	4.6

F 2 あなたのお年は満でいくつですか。 n=1422

	歳		
18～19 歳	1.3	50 歳代	14.9
20 歳代	6.6	60 歳代	18.2
30 歳代	10.1	70 歳代	21.6
40 歳代	12.8	80 歳以上	9.8
		無回答	4.6

F 3 あなたが最後に在籍した（または現在在籍している）学校を、下記の中から 1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1422

1 中学校	8.5
2 高校	36.9
3 高専・短大・専修学校	19.8
4 大学	25.3
5 大学院（修士・博士）	2.2
6 答えない	2.3
無回答	5.1

F 4 あなたの現在のお住まいは、次のうちどれですか。 1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1422

1 持ち家（一戸建て）	65.5
2 持ち家（マンションなどの集合住宅）	9.0
3 賃貸住宅（一戸建て）	2.4
4 賃貸住宅（マンション、アパートなどの集合住宅）	15.2
5 社宅・寮	1.8
6 その他	1.5
無回答	4.7

F 5 あなたは、一人住まいですか。それとも家族等の方と同居されていますか。 1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1422

1 一人住まい	2 家族等と同居	3 その他
14.2	79.7	1.4

F 6 あなたにはお子さんがいますか。（同居に限らず、独立しているお子さんも含みます。また、未成年か成人かは問いません。） 1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1422

1 いる	2 いない	無回答
68.3	26.9	4.9

F 7 あなたのお宅には、家庭用の固定電話がありますか。 1つ選んで番号に○をつけてください。

（携帯電話・スマートフォンのみの方は「2 ない」に○をつけてください。） n=1422

1 ある	2 ない	無回答
69.3	25.5	5.1

F 8 あなたは現在、携帯電話・スマートフォンを持っていますか。 1つ選んで番号に○をつけてください。

n=1422

1 はい	2 いいえ	無回答
89.1	5.6	5.3

F 9 最後に、あなたは、ご自宅で電話を使う場合次のどれに当てはまりますか。 1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1422

1 固定電話だけ使う	6.3
2 携帯電話・スマートフォンだけ使う	39.5
3 両方使うが主に固定電話	7.2
4 両方使うが主に携帯電話・スマートフォン	35.6
5 両方とも同じ程度使う	5.2
6 両方とも使わない	0.6
無回答	5.6

Ⅲ 調査結果の概要

わが国では、同一人を対象として、国政選挙の前後における意識・態度の推移を検証するパネル調査を全国規模で行うという事例は極めて少ない。今回の調査は、衆議院の中選挙区制時代の1983年に三宅一郎氏（現神戸大学名誉教授）らのJABISSグループが実施して以来の、ほぼ40年ぶりの調査研究に相当する〔注1〕。

参院選の選挙前調査の対象者数（3,150人）に対する回答者数は1,787人、このうちの有効回答1,721に対して、選挙後調査の調査票を送付し、最終的な回収者数は1,494人、最終有効回答数は1,422となった。

1. 投票予定政党と投票政党

まず、選挙前の投票予定と実際の投票との関係を確認してみよう。

選挙前調査では、選挙区、比例区それぞれについて、「どの政党の候補者（選挙区）」、「どの政党またはどの政党の候補者（比例区）」に投票するか決めているかを聞き、「決めている」と回答した人に「それはどの政党の人か」、「どの政党またはどの政党の候補者か」を選択してもらった。選挙後調査では、「どの政党の候補者に投票したか（選挙区）」、「どの政党またはどの政党の候補者に投票したか（比例区）」をそれぞれ聞いているので、前・後の回答間の整合関係を捕捉することができる。

【表1-1】を参照されたい。選挙区に関して、投票予定と実際の投票先が一致する割合が77%、予定とは別の政党の候補者に投票したとする不一致率が14%となっている。年齢別の傾向をみると、該当者の度数に留意が必要ではあるものの、18～29歳の最若年層の一致率が他の年代にくらべて顕著に低いことが判明する。

【表1-1】投票予定先決定者の投票先（選挙区）

	(実数)	予定先と一致	予定先と不一致	行かなかった・無回答など
全体	(602)	77%	14%	9%
18～29歳	(11)	55%	27%	18%
30代	(38)	74%	21%	5%
40代	(51)	78%	12%	10%
50代	(82)	66%	17%	17%
60代	(127)	76%	17%	7%
70歳以上	(259)	81%	12%	8%
無回答	(34)	79%	9%	12%

【表 1 - 2】の比例区については、一致率が 76%、不一致率が 16%で、選挙区とほぼ同様の傾向を確認することができる。年齢別では、18～29 歳の一貫度が 40%と選挙区を下回ったことで、他の年代との相違がさらに拡大している。なお、選挙区、比例区ともに、事前に投票予定先を決めていても「投票に行かなかった」という人が「無回答」を含めて 9%を占めている。

【表 1 - 2】投票予定先決定者の投票先(比例代表)

	(実数)	予定先と 一致	予定先と 不一致	行かなかった・ 無回答など
全体	(599)	76%	16%	9%
18～29 歳	(10)	40%	50%	10%
30 代	(35)	74%	23%	3%
40 代	(50)	74%	14%	12%
50 代	(81)	70%	14%	16%
60 代	(127)	77%	17%	6%
70 歳以上	(264)	77%	14%	8%
無回答	(32)	81%	9%	9%

選挙前調査では、投票予定先を「決めていない」・「わからない」と回答した人たちに、「あえて選ぶとすればどの政党の候補者か（選挙区）」、「あえて選ぶとすれば、どの政党またはどの政党の候補者か（比例区）」を問うている。【表 1-3】＝選挙区、【表 1-4】＝比例区は、「あえて」の投票予定先と実際の投票先との対応関係をまとめたものである。一致率は選挙区が 54%、比例区が 59%と、【表 1-1】、【表 1-2】でみた「決めている」人たちに比べて大きく低下している。ただし、18～29 歳においては「決めている」－「あえて」間にそれほどの相違は存在しない。すなわち、「あえて」の人たちにおける一致率の低落は 30 代以上に該当する。「あえて」で投票先を選んだ人たちに関しては、年代間に大きな比率の相違が存在せず、似通った傾向であることが確認できる。

【表 1-3】「あえて」の投票予定先決定者の投票先（選挙区）

	(実数)	「あえて」の 予定先と一致	「あえて」の 予定先と不一致	行かなかった・ 無回答など
全体	(367)	54%	34%	12%
18～29 歳	(35)	46%	37%	17%
30 代	(45)	56%	31%	13%
40 代	(58)	47%	40%	14%
50 代	(58)	55%	35%	10%
60 代	(55)	49%	33%	18%
70 歳以上	(98)	63%	30%	7%
無回答	(18)	50%	50%	—

【表 1-4】「あえて」の投票予定先決定者の投票先（比例代表）

	(実数)	「あえて」の 予定先と一致	「あえて」の 予定先と不一致	行かなかった・ 無回答など
全体	(349)	59%	29%	13%
18～29 歳	(36)	50%	31%	19%
30 代	(40)	68%	20%	13%
40 代	(50)	62%	32%	6%
50 代	(57)	46%	40%	14%
60 代	(58)	55%	22%	22%
70 歳以上	(92)	64%	28%	8%
無回答	(16)	69%	25%	6%

また、この「あえて」層では、投票予定先と実際の投票先が異なる割合が、先の「決めている」層に比して、34%（選挙区）、29%（比例区）と倍増している。言い換えれば、「投票に行かなかった（無回答を含む）」とする比率が、12%（選挙区）、13%（比例区）と「決めている」層における値とそれほど変わらないということは、「あえて」で投票予定先を選択する、いわば消極的支持層とはいっても、投票への志向性の高さは相応の度合いであることが確認できよう。

なお、「決めている」と「あえて」を合わせた投票予定先と実際の投票先を集計すると、一致率が68%（選挙区）、69%（比例区）、不一致率が22%（選挙区）、21%（比例区）、「行かなかった・無回答」が10%（選挙区・比例区）となっている。【表1-5】＝選挙区、および【表1-6】＝比例区を、それぞれ参照されたい。

【表1-5】投票予定先決定者の投票先（選挙区）

	(実数)	予定先(あえて含む) と一致	予定先(あえて含む) と不一致	行かなかった・ 無回答など
全体	(969)	68%	22%	10%
18～29歳	(46)	48%	35%	17%
30代	(83)	64%	27%	10%
40代	(109)	62%	27%	12%
50代	(140)	61%	24%	14%
60代	(182)	68%	21%	10%
70歳以上	(357)	76%	17%	8%
無回答	(52)	69%	23%	8%

【表1-6】投票予定先決定者の投票先（比例代表）

	(実数)	予定先(あえて含む) と一致	予定先(あえて含む) と不一致	行かなかった・ 無回答など
全体	(948)	69%	21%	10%
18～29歳	(46)	48%	35%	17%
30代	(75)	71%	21%	8%
40代	(100)	68%	23%	9%
50代	(138)	60%	25%	15%
60代	(185)	70%	18%	11%
70歳以上	(356)	74%	18%	8%
無回答	(48)	77%	15%	8%

2. 政党支持の類型

今回のパネル調査では、投票先質問に加えて支持政党質問も採用している。実際のクエッションネアは、選挙前、選挙後ともに、「あなたは支持している政党がありますか」と聞き、「ある」と回答した人に、その政党名を選択してもらう方式である。回答パターンは、1. 前後2回とも支持政党が同一である「安定的支持者」、2. 前後で支持政党が異なる「支持政党変更者」、3. 『支持政党なし』（選挙前）＋『特定の支持政党』（選挙後）、ないし『特定の支持政党』（選挙前）＋『支持政党なし』（選挙後）の「散発的支持者」、4. 前後2回とも『支持政党なし』の「安定的支持なし」の4つに類型できる。

【表2-1】は、4つの類型のシェアを算出したものである。全体で、「安定的支持なし」＝37%、「安定的支持者」＝31%、「散発的支持者」＝15%、「支持政党変更者」＝3%の順となっている。年齢別の傾向を確認すると、2回とも支持政党が同一である「安定的支持者」においては、最若年層で最も低く、最高年齢層が最も高いという、右肩上がりの年功構造が存在している。一方、2回とも『支持政党なし』の「安定的支持なし」に関しては、「若高一老低」型の逆年功構造が見受けられるものの、18～29歳、30代、40代における比率は5割強で共通している。

【表2-1】 政党支持の類型

	(実数)	安定的支持者	支持政党変更者	散発的支持者	安定的支持なし	その他
全体	(1,422)	31%	3%	15%	37%	14%
18～29歳	(113)	9%	2%	12%	53%	25%
30代	(144)	17%	4%	13%	55%	12%
40代	(182)	19%	1%	14%	53%	13%
50代	(212)	29%	2%	14%	43%	13%
60代	(259)	37%	3%	15%	32%	13%
70歳以上	(447)	43%	4%	18%	22%	12%
無回答	(65)	39%	6%	12%	26%	17%

次いで、【表 2-2】を参照されたい。支持類型別の投票志向性、すなわち、参院選の投票の有・無を示している。参院選で「投票に行った」とする比率は、「支持政党変更者」＝93%、「安定的支持者」＝89%、「散発的支持者」＝83%、「安定的支持なし」＝70%の順で、「支持政党変更者」と「安定的支持者」における高い投票志向性を確認することができる。ただ、「安定的支持なし」の値の評価に関しては、相応の投票志向性を有していると解釈することもできるだろう。

表 2-2 政党支持の類型別投票の有無

	(実数)	投票に行った	投票に行かなかった	選挙権がなかった
全体	(1, 226)	80%	20%	0%
安定的支持者	(443)	89%	10%	0%
支持政党変更者	(44)	93%	7%	—
散発的支持者	(211)	83%	17%	—
安定的支持なし	(528)	70%	30%	0%

さて、政党支持の4類型は、衆議院の中選挙区制時代に三宅一郎氏らの JABISS 研究者グループが定義したものに対応させている。三宅氏らは、1983年12月に行われた衆院選の前後にパネルによる全国調査を実施している。われわれの調査結果を当時に合わせて集計した比較対照表＝【表 2-3】を参照されたい。1983年調査と2022年調査とでは、衆院選(1983)と参院選(2022)という条件の相違が存在する。調査方法も前者が面接法、後者が郵送法で、質問の方式にも違いが存在する。しかしながら、「安定的支持者」および「安定的支持なし」の割合に明らかなように、二つの調査結果の間には、政党支持の脈絡、言い換えるならば、有権者と政党との間の関係性における質的な相違が介在していると推測される〔注2〕。

表 2-3 政党支持の類型（比較）

	2022. パネル調査 参院選挙前－参院選挙後	1983. パネル調査 衆院選挙前－衆院選挙後
安定的支持者	36%	63%
支持政党変更者	4%	9%
散発的支持者	17%	19%
安定的支持なし	43%	9%
(実数)	(1, 226)	(1, 286)

3. 「支持」と「投票」

ここからは、選挙後調査の結果をもとに、「支持」と「投票」との間の対応関係を確認してみたい。【表3-1】は、選挙区に関して、各政党の支持者が当該政党に投票した割合、いわゆる歩留まり率をまとめたものである。

参議院の選挙区の場合、1人区が多いため、候補者を擁立しない政党が存在することに留意する必要がある。やはり、候補者数が30人を越える自民、立憲民主、共産の3党の値が高く、7割を上回っている。

【表3-1】支持と投票（選挙区） (％)

投票 支持 政党	政党 (実数)	自由 民主党	立憲 民主党	日本維 新の会	公明党	国民 民主党	日本 共産党	他党・ 無所属 (計)	投票に 行かな かった
全体	(1,422)	37	14	8	4	3	3	7	21
自由民主党	(336)	77	2	2	2	1	—	2	13
立憲民主党	(82)	5	74	—	1	4	1	4	10
日本維新の会	(74)	16	5	57	—	1	1	1	14
公明党	(67)	36	2	—	55	—	2	—	5
国民民主党	(16)	13	6	—	—	56	6	—	19
日本共産党	(19)	5	11	—	—	—	74	—	—
他党（計）	(48)	8	10	4	—	—	4	50	21
支持政党はない	(663)	27	14	8	3	4	3	9	28

次いで、比例代表をみてみよう。**【表3-2】**を参照されたい。比例については、全国1区ゆえに各政党が候補者を擁立していることもあり、選挙区に比して歩留まり率が高くなっている。とりわけ、組織政党といわれている公明党と共産党の値は90%を示している。これに対して、日本維新の会や国民民主党の値は相対的に低く、支持政党なし層などの、いわゆる浮動票に依拠する度合いが大きいことが示唆される。自民党と立憲民主党が、これらの政党の中間の値となっている。

【表3-2】 支持と投票（比例代表） (％)

投票 支持 政党 政党	(実数)	自由 民主党	立憲 民主党	日本維 新の会	公明党	国民 民主党	日本 共産党	他党 (計)	投票に 行かなか った
全体	(1,422)	31	12	11	8	4	3	8	21
自由民主党	(336)	72	2	5	3	2	0	2	13
立憲民主党	(82)	4	81	1	—	1	1	1	10
日本維新の会	(74)	5	3	66	4	1	1	3	14
公明党	(67)	—	2	—	90	2	2	—	5
国民民主党	(16)	13	—	—	—	56	—	13	19
日本共産党	(19)	—	—	—	—	—	90	11	—
他党（計）	(48)	6	4	2	—	—	—	67	21
支持政党はない	(663)	23	13	10	5	4	3	9	28

今度は、視点を反転させて、投票者を基準とした時の当該政党の支持者の比率を確認してみよう。まず、**【表3-3】**の選挙区については、支持者の歩留まり率に比べて、各党とも値が大きく低下している。**【表3-4】**の比例代表に関しても、選挙区と同様の傾向が存在している。

これらの結果からは、支持政党を持たない人たちの多くが、時宜の選挙に応じて投票先を選択していることが確認できる。言い換えるならば、こうした時宜の選択をする人たちの存在が、政党に相応の緊張感をもたらしているという解釈も成立するであろう。「支持」は「投票」の必要条件であるものの、十分条件ではないという推測が成り立つ。支持者の集合は投票者の集合と重なり合いつつ、投票者の集合に包含されるという構図を読み取ることができよう。

【表3-3】投票と支持（選挙区）

（％）

投票政党 \ 支持政党	(実数)	自由民主党	立憲民主党	日本維新の会	公明党	国民民主党	日本共産党	他党(計)	支持政党なし
全体	(1,422)	24	6	5	5	1	1	3	47
自由民主党	(526)	49	1	2	5	0	0	1	34
立憲民主党	(192)	4	32	2	1	1	1	3	48
日本維新の会	(116)	4	—	36	—	—	—	2	46
公明党	(63)	8	2	—	59	—	—	—	29
国民民主党	(46)	9	7	2	—	20	—	—	57
日本共産党	(42)	—	2	2	2	2	33	5	48
他党・無所属(計)	(98)	8	3	1	—	—	—	25	58
投票に行かなかった	(292)	15	3	3	1	1	—	3	64

【表3-4】投票と支持（比例代表）

（％）

投票政党 \ 支持政党	(実数)	自由民主党	立憲民主党	日本維新の会	公明党	国民民主党	日本共産党	他党(計)	支持政党なし
全体	(1,422)	24	6	5	5	1	1	3	47
自由民主党	(437)	55	1	1	—	1	—	1	34
立憲民主党	(172)	3	38	1	1	—	—	1	49
日本維新の会	(150)	10	1	33	—	—	—	1	45
公明党	(115)	9	—	3	52	—	—	—	30
国民民主党	(50)	12	2	2	2	18	—	—	58
日本共産党	(44)	2	2	2	2	—	39	—	48
他党(計)	(111)	5	1	2	—	2	2	29	52
投票に行かなかった	(292)	15	3	3	1	1	—	3	64

さて、明るい選挙推進協会では、毎回の国政選挙後に、有権者の投票行動や政治意識に関する全国調査を実施し続けてきた。【表3-5】および【表3-6】は、過去の参議院議員選挙後調査における、「支持」と「投票」の関係をまとめたものである。当時と今回とは、前者が面接調査、後者が郵送調査で、方法が異なることに留意が必要である。ただ、【表3-5】の選挙区（旧地方区）に関しては、衆議院とは違って、旧地方区から現行の選挙区への制度的連続性が確保されているため比較検討が可能となる。

【表3-5】「支持」と「投票」【支持者の投票政党と投票者の支持政党】（明推協 選挙時調査）

		1971 (参院選・地方区)	1977 (参院選・地方区)	1980 (衆参同日・地方区)	1983 (参院選・選挙区)
自民 党	(支持→投票)	90%	88%	89%	91%
	(投票→支持)	69%	80%	87%	80%
社会 党	(支持→投票)	88%	83%	82%	90%
	(投票→支持)	63%	62%	62%	54%
共産 党	(支持→投票)	87%	92%	84%	93%
	(投票→支持)	47%	52%	59%	66%

【表3-6】「支持」と「投票」【支持者の投票政党と投票者の支持政党】（明推協 選挙時調査）

		1977 (参院選・全国区)	1980 (衆参同日・全国区)	1983 (参院選・比例代表)	1986 (衆参同日・比例代表)
自民 党	(支持→投票)	81%	84%	88%	89%
	(投票→支持)	80%	87%	84%	88%
社会 党	(支持→投票)	73%	69%	86%	85%
	(投票→支持)	66%	77%	69%	77%
公明 党	(支持→投票)	95%	94%	98%	99%
	(投票→支持)	56%	69%	63%	73%
民社 党	(支持→投票)	69%	64%	90%	82%
	(投票→支持)	51%	52%	66%	59%
共産 党	(支持→投票)	83%	74%	85%	90%
	(投票→支持)	55%	71%	68%	62%
新自由 クラブ	(支持→投票)	49%	37%	76%	100%
	(投票→支持)	27%	41%	38%	35%

【表3-5】の1970、80年代の結果と【表3-7】の2022年とを対比していただきたい。2022年は、1970、80年代と比べて、支持者の歩留まり率が大きく低下していることが読み取れる。政党帰属意識、すなわち、有権者と政党との関係性の変容が示唆されよう。

次に、比例代表について、【表3-6】=1970、80年代と【表3-8】=2022年とを比較していただきたい。比例区の1977年と1980年は、今と違って旧全国区で候補者個人単位の選択であったので、比較の対象は1983年と1986年に限定するべきであろう。二つの表を見比べると、【表3-8】(2022年)は、【表3-6】(1983、86年)に対して、各政党の上段(支持→投票)の値と下段(投票→支持)の値の差、つまり、支持者の歩留まり率と投票者中の支持者比率の差が拡大していることがわかる。40年ほどの間に、社会の脱組織化による無党派層の増大や選挙制度自体の変更などにより、有権者と政党との関係性に変化が生じ、投票行動が大きく流動化したことをうかがい知ることができるだろう。

【表3-7】支持と投票

		2022 (参院選・選挙区)
自民党	(支持→投票)	77%
	(投票→支持)	49%
立憲 民主党	(支持→投票)	74%
	(投票→支持)	32%
日本維 新の会	(支持→投票)	57%
	(投票→支持)	36%
公明党	(支持→投票)	55%
	(投票→支持)	59%
国民 民主党	(支持→投票)	56%
	(投票→支持)	20%
共産党	(支持→投票)	74%
	(投票→支持)	33%

【表3-8】支持と投票

		2022 (参院選・比例代表)
自民党	(支持→投票)	72%
	(投票→支持)	55%
立憲 民主党	(支持→投票)	81%
	(投票→支持)	38%
日本維 新の会	(支持→投票)	66%
	(投票→支持)	33%
公明党	(支持→投票)	90%
	(投票→支持)	52%
国民 民主党	(支持→投票)	56%
	(投票→支持)	18%
共産党	(支持→投票)	90%
	(投票→支持)	39%

4. 「支持（政党）」と「拒否（政党）」：政党支持の「幅」

今回の調査では、政党支持に関して、「支持政党のある・なし」質問に加え「拒否政党のある・なし」質問を採用している。拒否政党とは、すなわち、「支持したくない・投票したくない政党」に相当する〔注3〕。

選挙前調査の結果にもとに、【表4-1】が支持政党の「ある・なし」、【表4-2】が拒否政党の「ある・なし」比率を、年齢別にまとめたものである。【表4-1】の支持政党に関しては、「ある」＝「若低－老高」、「なし」＝「若高－老低」という顕著な年齢差が存在している。値についても、「支持政党なし」比率は、18～29歳の72%を最高に50代までが5割を上回っており、全体でも「支持政党あり」の42%を上回る50%を占めている。

これに対して、拒否政党の「ある・なし」に関しては、大きな年齢差は見受けられない。わけても、拒否政党が「ある」とする「拒否政党」保有率は、「支持政党」の保有率が12%に過ぎなかった18～29歳の若年層でも46%と半数近くを占め、全体平均も61%という高い値を示している。「支持」－「拒否」間にみられる構造の相違は、有権者が政党を認知する際にはネガティブ・イメージが起点になっているということを示唆しているのだろうか。「支持（投票）政党」とは、「支持（投票）したくない政党」を除いた後の、消極的な選択に相当するのだろうか。

【表4-1】 支持政党の「ある」・「なし」 (%)

	(実数)	ある	ない	わからない	無回答
全体	(1,422)	42	50	7	1
18～29歳	(116)	12	72	16	—
30代	(146)	24	69	7	—
40代	(184)	27	65	8	—
50代	(214)	39	55	6	1
60代	(265)	49	43	7	1
70歳以上	(473)	59	35	4	2
無回答	(24)	17	63	21	—

【表4-2】 拒否政党の「ある」・「なし」 (%)

	(実数)	ある	ない	わからない	無回答
全体	(1,422)	61	19	16	4
18～29歳	(116)	46	23	30	1
30代	(146)	59	20	19	2
40代	(184)	52	30	15	3
50代	(214)	65	18	14	3
60代	(265)	69	17	10	4
70歳以上	(473)	64	17	15	5
無回答	(24)	38	17	33	13

さて、明るい選挙推進協会の調査においては、衆議院の中選挙区時代の1968年から86年にかけて「拒否政党のある・なし」質問を採用していた。【表4-3】は、当時の結果をまとめたものである。拒否政党の「ある・なし」に関しては、年齢差が存在しないという2022年現在と共通の傾向が存在することがわかるだろう。加えて、1968～1986年の約20年間の比率の推移についても、有意な変動はみられず、非常に安定した構造が示唆される。

【表4-3】拒否政党の「ある」・「なし」（明推協 選挙時調査） (%)

		20代	30代	40代	50代	60以上	全体
1968 (参院選)	拒否政党あり	53	54	55	54	50	53
	〃 なし	40	39	38	37	37	38
1969 (衆院選)	拒否政党あり	47	49	49	53	39	48
	〃 なし	41	42	38	36	43	40
1971 (参院選)	拒否政党あり	42	41	48	44	39	43
	〃 なし	49	51	44	45	48	48
1972 (衆院選)	拒否政党あり	41	40	41	41	37	40
	〃 なし	51	54	50	49	48	51
1976 (衆院選)	拒否政党あり	47	50	51	53	52	50
	〃 なし	44	42	39	38	35	40
1979 (衆院選)	拒否政党あり	41	41	45	49	43	44
	〃 なし	51	53	49	46	49	49
1980 (衆参同日)	拒否政党あり	49	52	53	55	54	53
	〃 なし	46	45	42	39	39	42
1983 (参院選)	拒否政党あり	57	43	40	45	42	42
	〃 なし	58	51	53	50	51	52
1983 (衆院選)	拒否政党あり	44	51	49	52	51	50
	〃 なし	53	45	46	44	44	46
1986 (衆参同日)	拒否政党あり	38	47	45	50	50	47
	〃 なし	56	47	50	45	44	48

ここでさらに、今回の調査結果について、支持政党の「ある・なし」と拒否政党の「ある・なし」の組み合わせのパタン分けを試みよう。【表4-4】は全回答者中のパタン分けの結果を、【表4-5】は「ある・なし」を明示した主要4パタンに焦点を絞った場合のシェアを、それぞれ集計している。【表4-5】によれば、「支持政党あり」の47%に対して、「拒否政党あり」は75%と顕著に高い値を示している。視点を変えてみれば、「支持政党はなくても拒否政党はある」が36%（【表4-5】）、回答者全体中でも27%（【表4-4】）と相応の比率を占めている。29ページの「支持」－「拒否」の構造の相違でみたように、有権者における政党の認知ないし政党の選択は、拒否政党、すなわち、「支持したくない政党＝嫌いな政党」のイメージが起点になっているのかもしれない。

【表4-4】「支持」と「拒否」

		(実数)
支持あり&拒否あり	29%	(502)
支持あり&拒否なし	6%	(100)
支持なし&拒否あり	27%	(466)
支持なし&拒否なし	13%	(225)
支持あり&拒否わからない or 支持わからない&拒否あり	6%	(108)
支持なし&拒否わからない or 支持わからない&拒否なし	11%	(180)
支持わからない&拒否わからない	3%	(56)
非完答	5%	(84)

【表4-5】「支持」×「拒否」の類型

	拒否あり	拒否なし
支持あり	39% (502)	8% (100)
支持なし	36% (466)	17% (225)

我が国の政治意識研究の歴史をさかのぼると、すでに1960年代において、政党支持の「幅」なる概念が提示されている〔注4〕。政党支持の「幅」とは、つまり、「多党制の下の日本においては、人々の特定政党への帰属意識が脆弱であり、そこには、複数の政党からなる選択の『幅』が存在しているのではないかという仮説である」。そして、その定義によれば、「政党支持の『幅』とは、単一選択質問の回答に見られる特定の『支持政党』を中核とし、『(この党だけは)支持したくない』という、いわゆる『拒否政党』を除いた『消極的な支持政党』をその周辺として、この両者から構成されているというのである」〔注5〕。政党支持の「幅」とは、選択の際の許容範囲に相当しよう。言い換えるならば、拒否政党以外の、いわば残余カテゴリーのような概念にほかならない。

三宅一郎氏は、さらに、「支持の幅の広狭」に関して、「支持政党（第一選択の党）への支持度が強いほど、支持の幅はより狭く、『拒否の幅』はより広くなる。これに対して、政党支持度が弱いと、支持の幅が広くなるか、さもなければ、『無関心の幅』を広げるだろう」と述べている〔注6〕。

三宅氏のこの仮説を検証することは今回の調査結果からは難しい。ここでは、参考比較として、先の2章で作成した政党支持の類型を基準に、類型別の拒否政党数をまとめてみよう。

【表4-6】を参照されたい。表中の安定的支持者、つまり、選挙の前と後で支持政党が変わらない「第一選択政党への支持度の強い」人たちは、拒否政党数が3党以上の比率が比較的高く、0(ゼロ)の比率が低い。これに対して、選挙の前も後も支持政党なしである安定的支持なし層、すなわち「政党支持度が弱い」人たちは「拒否政党なし(0=ゼロ)」の割合が高くなっている。55年体制下の40年前との連続性を示唆しているようにも思われるが、安易な外挿はひとまず差し控えておきたい。

【表4-6】 支持類型別拒否政党数

	(実数)	0党	1党	2党	3党以上	無回答
全体	(1,145)	24%	45%	9%	22%	0
安定的支持者	(393)	15%	50%	9%	26%	—
支持政党変更者	(38)	11%	61%	11%	18%	—
散発的支持者	(172)	21%	51%	9%	19%	—
安定的支持なし	(426)	33%	38%	10%	19%	—
その他	(116)	30%	45%	3%	22%	1

5. 若年有権者の投票行動と情報環境

ここからは、18～29歳の若い有権者に焦点を当てて、考察していきたい。

まずは、参院選の選挙後調査の結果をもとに、「投票に行ったか・行かなかったか」を弁別する要素を検討してみよう。【表5-1】は、「親との投票所体験の有・無」と投票行動との関連をまとめたものである。親との投票所体験とは、「子どものころ、親と一緒に投票所に行ったことがある」が相当する。体験「あり」派は「投票に行った」が65%、「なし」派は逆に「投票に行かなかった」が56%で、大小関係が逆転している。投票への動機付けの第一歩は、親が投票している姿を子どもに見せること、まさに、「親の背中を見て子は育つ」にほかならない。

【表5-1】「親と投票所体験」×投票の「有」・「無」（18～29歳）

	投票に行った	投票に行かなかった
投票所体験あり	65%	35%
投票所体験なし	44%	56%

親に連れられた投票所体験の次は、「家族と政治の話」をする頻度と投票行動との関連を、【表5-2】で確認することにしよう。「よくある」人たちの「投票に行った」比率は、92%と非常に高い値を示している。「ときどきある」人たちも、65%が「投票に行った」と回答している。他方、「あまりない」と「全くない」人たちの比率はそれぞれ49%、45%で、いずれも「投票に行かなかった」が半数を上回っている。家族との日常的な会話の有無が投票の有無を弁別する要素になっていることが読み取れよう。いずれにせよ、主権者教育を効果的に展開するためには、家庭環境が前提条件、ないし背後条件とならざるを得ないことが示唆される結果である。

【表5-2】「家族との政治の話」×投票の「有」・「無」（18～29歳）

	投票に行った	投票に行かなかった
よくある	92%	8%
ときどきある	65%	35%
あまりない	49%	51%
全くない	45%	55%

今度は、友人関係と投票行動の関連をみてみよう。**【表5-3】**を参照されたい。「友人と政治の話」を「よくする」人たちの「投票に行った」比率は80%を示している。「ときどきある」も75%と比較的高い。ただ、「全くない」人たちも「投票に行った」が60%と相応の割合である。「家族との政治の話」で確認したような、頻度に応じた明確な相違は存在せず、友人関係が投票の有無を弁別する要素とはならないことが示唆される。

【表5-3】「友人との政治の話」×投票の「有・無」(18~29歳)

	投票に行った	投票に行かなかった
よくある	80%	20%
ときどきある	75%	25%
あまりない	51%	49%
全くない	60%	41%

最後に、情報行動について確認しておきたい。【表5-4】は、社会や政治のニュースに触れる媒体とその頻度を、テレビ(A)、新聞(B)、インターネット(C)の順に、まとめている。「毎日見ている」割合は、テレビが60%で最も高く、新聞とインターネットの34%、33%を大きく上回っている。しかしながら、そのテレビ(A)に関しても、「あまり見ない」と「全く見ない」の合計比率が、18~29歳、20代、30代の比較的若い有権者においては4割前後を占めている。

新聞(B)をみると、「あまり」と「全く」を合計した「読まない」比率が、18~29歳から40代までにおいて7割以上を占めていることが確認できる。

注目されるのは、インターネット(C)に関する結果であろう。「毎日見ている」とする比率が高いのは、若年層ではなく、30代から50、60代にかけての中年層であり、18~29歳の最若年層については「あまり見ない」が58%を占めている。これらの結果は、媒体の問題というよりも、そもそも、社会や政治のニュース自体に触れる機会が少ない人たちが存在することを示唆している。事実や常識の共有という、社会が機能するための前提条件がやや怪しくなりつつあることの兆候のようにも思われる。

【表5-4】社会や政治のニュースに触れる媒体とその頻度

(A) テレビで社会や政治のニュースを見る

(%)

	(実数)	毎日 見ている	週に2、3回 見ている	あまり 見ない	全く 見ない	見ている (計)	見ない (計)
全体	(1422)	60	20	15	4	80	20
18~19歳	(19)	21	32	37	5	53	42
20代	(94)	22	27	36	13	49	49
30代	(144)	34	28	28	10	63	38
40代	(182)	48	26	20	6	74	26
50代	(212)	58	25	14	4	83	18
60代	(259)	71	15	11	2	87	13
70代	(307)	79	12	7	1	91	8
80歳以上	(140)	76	14	8	1	90	9
無回答	(65)	52	23	17	5	75	22

(B) 新聞で社会や政治の記事を読む

(%)

	(実数)	毎日 読んでいる	週に2、3回 読んでいる	あまり 読まない	全く 読まない	読んでいる (計)	読まない (計)
全体	(1422)	34	16	21	29	49	49
18～19歳	(19)	5	16	32	42	21	74
20代	(94)	4	10	25	57	14	82
30代	(144)	9	10	20	60	19	81
40代	(182)	12	17	21	49	29	70
50代	(212)	28	15	22	34	43	56
60代	(259)	37	19	22	22	56	44
70代	(307)	58	16	19	7	74	25
80歳以上	(140)	55	16	20	6	71	26
無回答	(65)	45	15	12	23	60	35

(C) インターネットで社会や政治のニュースを見る

(%)

	(実数)	毎日 見ている	週に2、3回 見ている	あまり 見ない	全く 見ない	見ている (計)	見ない (計)
全体	(1422)	33	22	21	19	55	40
18～19歳	(19)	21	21	58	-	42	58
20代	(94)	28	41	21	6	69	28
30代	(144)	41	31	22	6	72	28
40代	(182)	44	31	20	5	75	25
50代	(212)	46	27	21	6	73	27
60代	(259)	39	21	21	17	60	38
70代	(307)	21	11	21	37	32	58
80歳以上	(140)	8	7	13	51	15	64
無回答	(65)	32	19	22	15	51	37

文責：松本正生 埼玉大学名誉教授
 明るい選挙推進協会理事

〔注〕

1. 綿貫譲治・三宅一郎・猪口孝・蒲島郁夫『日本人の投票行動』、東京大学出版会、1986。
2. 三宅一郎氏は、1983年に実施した3波のパネル調査の結果を、アメリカ、イギリス、カナダにおける同種の調査データと比較するなかで、「これら3か国のデータと比べると、…日本の政党支持は全般的に不安定であり、その不安定性に対する支持なしの影響が大きいと言える」と指摘している（三宅一郎「政党支持と政治的イメージ」、前掲『日本人の投票行動』79頁）。
3. 今回の調査では、「参院選で投票したくない政党があるか・ないか」を聞き、「ある」と回答した人に政党名を選択してもらう方式を採用した。詳しくは別掲の調査票を確認されたい。
4. 三宅一郎・木下富雄・間場寿一「政治意識構造論の試み」、『政治意識の理論と調査：年報政治学1965』（日本政治学会）1965、三宅一郎・木下富雄・間場寿一『異なるレベルにおける投票行動の研究』創文社、1967など。
5. 松本正生『世論調査と政党支持：戦後政党支持構造史』法政大学出版局、1991、144頁。
6. 三宅一郎『政党支持の分析』創文社、1985、109頁。

第 26 回参議院議員通常選挙 選挙前・選挙後調査

— 調査結果の概要 —

令和 5 年 3 月

公益財団法人 明るい選挙推進協会

住所 東京都千代田一番町 13-3 ラウンドクロス一番町 7 階

電話 03-6380-9891

FAX 03-5215-6780

Mail info@akaruisenkyo.or.jp
